

わが家の防災メモ

家族みんなで避難先(集合場所)や緊急時の連絡先などについて話し合い、ここに書き込みましょう。また、このマップを持って実際に避難先まで歩いてみましょう。避難先までにかかった時間や危険なところなどをチェックし、安全で避難しやすい経路を確認しておきましょう。

避難先(集合場所)

(自宅・学校・勤務先など)	(自宅・学校・勤務先など)	(自宅・学校・勤務先など)
避難所・避難場所までの危険箇所	避難所・避難場所までの危険箇所	避難所・避難場所までの危険箇所
歩いて避難した場合にかかった時間	歩いて避難した場合にかかった時間	歩いて避難した場合にかかった時間
分	分	分

家族のメモ

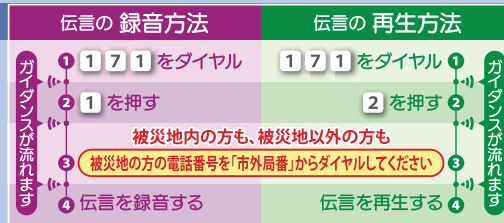
名前	血液型	勤務先等名称・連絡先	携帯電話番号

災害時の連絡方法

災害用伝言ダイヤル 171

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。

体験利用日
▶毎月1日・15日 ▶正月三が日 ▶防災週間 ▶防災とボランティア週間



災害用伝言板(web171) <https://www.web171.jp/> 左記URLへアクセスし、案内に従って操作してください

スマートフォン・携帯電話・PC等から災害用伝言板(web171)にアクセスすることで、テキストによる安否情報(伝言)の登録・確認を行うことができます。*体験利用日は、災害用伝言ダイヤルと同様です。

市では、この津波ハザードマップとは別に、土砂災害、洪水、ため池のハザードマップを作成しています。これらの災害に関する情報については、それぞれのハザードマップを確認してください。

お問い合わせ先 青森市役所 総務部危機管理課

〒030-8555 青森市中央一丁目22-5 TEL: 017-734-1111(代表) / 017-734-5059(直通)
<http://www.city.aomori.aomori.jp/>



津波ハザードマップ

行政機関、防災関連機関においては様々な防災活動を実施しておりますが、被害を最小限にいとめるためには、市民の皆様一人ひとりが「自分の命は自分で守る」「非常時には地域で助け合う」という自助・共助の意識を持ち、日頃から災害に備えることが重要です。市民の皆様におかれましては、このハザードマップを活用し、ご自宅や職場、通勤途中などにどのような津波被害が発生するかご確認いただき、いざという時に備えていただければ幸いです。

青森市

この「青森市津波ハザードマップ」では、2種類の津波の浸水想定区域を示しています。それぞれの津波の浸水想定区域の概要は以下のとおりです。

① 日本海溝モデル 海溝型地震

陸奥湾沿岸で最大クラスの津波をもたらす日本海溝を震源とする海溝型地震が発生した場合に想定される津波の最大浸水範囲を示しています。

② 入内断層モデル 内陸直下型地震

入内断層を震源とする内陸直下型地震が発生した場合に想定される津波の最大浸水範囲を示しています。

目次

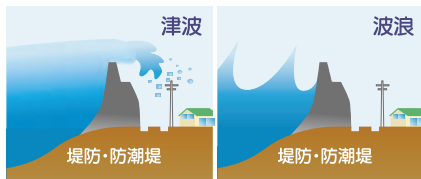
津波の特徴	P1	津波ハザードマップ	
青森市に影響する津波の特徴	P2	●日本海溝モデル(海溝型地震)全体索引図	… P7・P8
マップに示した浸水の深さ	P3	●入内断層モデル(内陸直下型地震)全体索引図	… P9・P10
津波に関する情報	P4	●津波浸水想定区域図	… P11~P36
津波被害を防ぐために	P5	避難所等一覧	… P37・P38
災害への備え	P6	わが家の防災メモ	裏表紙

身を守るために知っておきましょう

地震・津波はいつ、どこで発生するか分かりません。津波が到達するおそれがある場所にいるときは、できるだけ早く逃げる必要があります。津波の特徴を知っておきましょう。

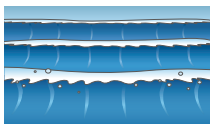
恐るべき津波の破壊力

- 普通の波(波浪)と違い、津波は海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力は凄まじいものとなります。
- 津波が陸上に押し寄せた後の引き波も長時間にわたるため、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。



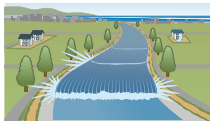
津波は繰り返し襲来する

- 津波は繰り返し襲ってきます。また、最初に到達する波が最も大きいとは限りません。
- 一度波が引いても、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。



津波は河川を遡上する

- 津波は河口から侵入し、何キロメートルも上流に遡上(逆流)することがあります。
- 遡上した津波が、河川堤防を越えて沿川地域に大きな被害をもたらすことがあります。



水深が浅くても危険

- 水中では歩行速度が低下するため、少しの浸水でも避難の妨げになってしまいます。
- 津波は勢いのある水が押し寄せてくるため、深さ15cmでも足元をすくわれてしまう可能性があります。



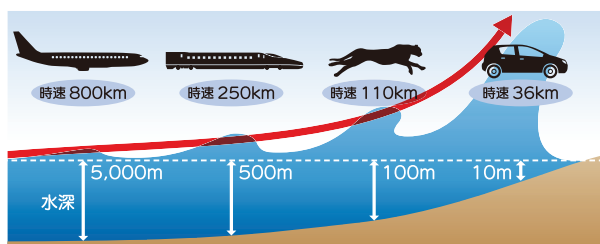
引き波があるとは限らない

- 津波は引き波から始まるとは限りません。
- よく、津波の前には引き波があるとされていますが、地震の種類や震源付近の地形などの影響によっては、いきなり津波が襲ってくる場合があります。



満潮のときは要注意

- 満潮のときは水位が高くなっているため、津波が高くなり、被害が大きくなることが想定されています。



津波の伝わる速さと高さについて

津波は、水深が深いほど早く伝わります。水深が浅くなるほど速度は落ちますが、津波のスピードは非常に速いため、見えてから逃げるのでは間に合いません。また、津波が陸地に近づくにつれ、あとから来る波が前の津波に追いつき、波高が高くなります。強い揺れを感じたらすぐに浸水想定区域外や、高く丈夫な建物などの安全な場所に避難しましょう。

特徴の異なる2種類の津波について

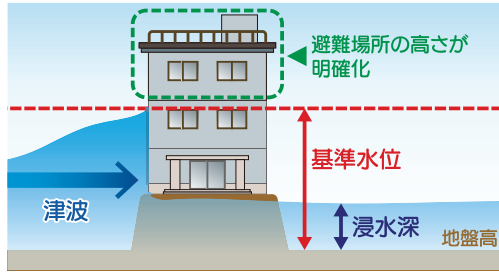
この津波ハザードマップに掲載している2種類の地震モデルにより発生する津波には、以下のように特徴に大きな違いがあります。

地震モデル	日本海溝モデル 海溝型地震	入内断層モデル 内陸直下型地震
震源域		
地震の規模	マグニチュード 9.1	マグニチュード 6.7
津波の影響	津波の到達が.....遅い 第一波到達時間 97分 津波の水位が.....高い 海岸線の最大津波水位 5.4m 津波の浸水域が.....広い 浸水面積 33.0km ²	津波の到達が.....早い 第一波到達時間 2分 津波の水位が.....低い 海岸線の最大津波水位 3.7m 津波の浸水域が.....狭い 浸水面積 2.8km ²

津波浸水想定用語の解説

用語	解説
津波影響開始時間(分)	代表地点(青森県が設定した地区の海岸線から100~500m程度沖合に設定した地点)において地震発生から初期水位±20cmの変化(海辺にいる人々の人命に影響が出るおそれのある水位変化)が生じるまでの時間
第一波到達時間(分)	代表地点において地震発生から第一波の最大到達高さが生じるまでの時間
最大波到達時間(分)	代表地点において地震発生から津波の最大到達高さが生じるまでの時間
最大波津波水位(m)	代表地点における津波の最大到達高さ

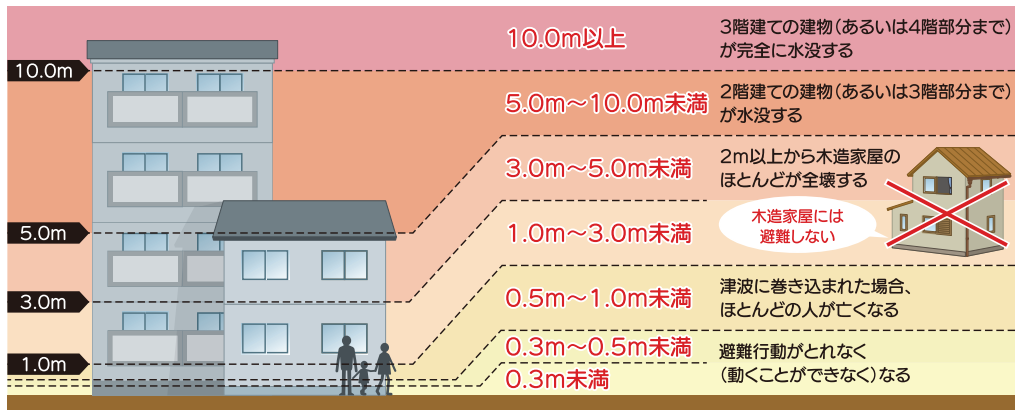
浸水の深さについて



- この津波ハザードマップでは、浸水の深さについて、基準水位と浸水深により表しています。
- 基準水位とは、建物等につづった津波のせり上がりを考慮した水位のことです。
- また、浸水深は、建物等につづった津波のせり上がりを考慮しない水位のことです。

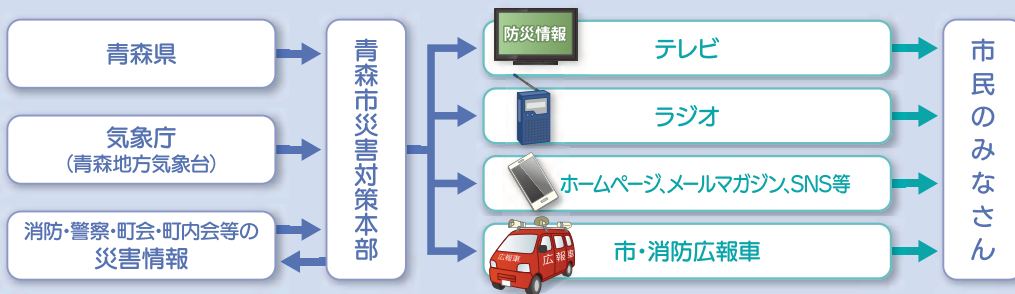
浸水の深さと高さの目安について

津波の力は非常に強いので、少しの浸水でも動けなくなり、避難は困難になります。揺れを感じたら直ちに近くの高台や高く丈夫な建物に避難しましょう。



情報の伝達経路

青森市役所などの公共機関から津波警報等の避難に関する情報が発信されます。最新かつ正確な情報入手し、安全に避難しましょう。



大津波警報・津波警報・津波注意報

地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発表されます。警報や注意報が発表された時は、すぐに以下のような行動をとりましょう。

種類	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表	巨大地震の場合の表現		
大津波警報 (特別警報に位置付け)	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所への避難を続けてください。	●木造家屋が全壊・流失します。 ●人は津波による流れに巻き込まれます。
	10m (5m<予想高さ≤10m)			
	5m (3m<予想高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より安全な場所を目指して避難しましょう!	●標高の低いところでは津波による浸水被害が発生します。 ●人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。 津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	●海の中では人は速い流れに巻き込まれます。 ●小型船舶が転覆します。

- 震源が陸地に近いと津波警報が間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
- 津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高く安全な場所を目指して避難しましょう。
- 地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」が発表されます。

青森市の防災情報の入手先

青森市の防災情報は、青森市メールマガジンを登録することで迅速かつ確実に入手することができます。市民の皆様、青森市メールマガジンを是非、ご登録ください。また、青森市メールマガジンのほか、携帯サイト・ツイッター・フェイスブックでも防災情報を入手できます。

青森市メールマガジン登録画面
<http://www.city.aomori.aomori.jp/mailmagazine-riyou.html>



青森市ホームページ
<http://www.city.aomori.aomori.jp/>



気象庁
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>



ツイッター「AomoriShi」
<http://twitter.com/aomorishi>



あおもり防災ポータル
<https://bousai.pref.aomori.lg.jp/>



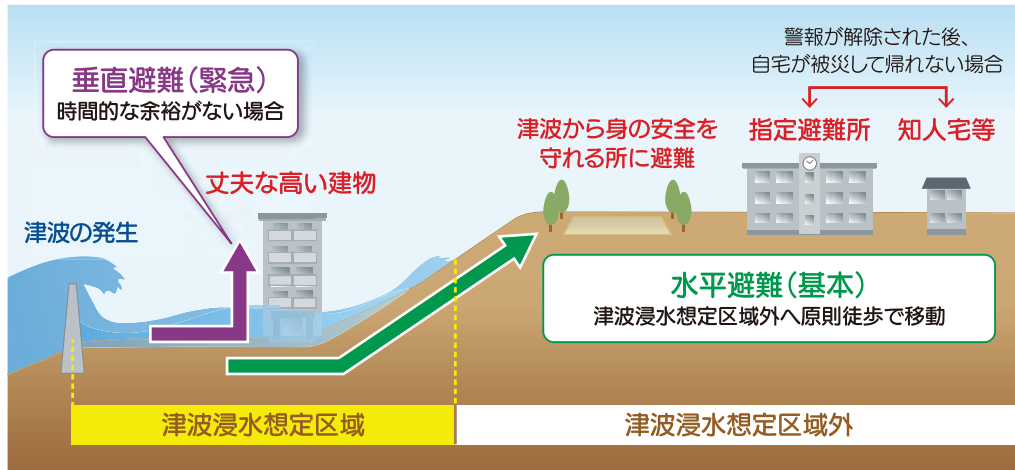
青森市公式フェイスブック
 「あおもり mori mori チャンネル」
<https://www.facebook.com/aomoricity>



国土交通省
 ハザードマップポータルサイト
<https://disaportal.gsi.go.jp/>



避難のポイントについて



津波から命を守るためのポイント

- 震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。
- 大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。
- 津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。
- 津波は長い時間くり返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。

津波からの避難

発災時には、以下のことに気をつけて、落ち着いて行動しましょう。



小さな揺れでも
油断禁物

たとえ小さな地震でも、津波が発生する危険性があります。



正しい情報を
入手する

テレビ・ラジオ・インターネットなどで、正しい情報を入手しましょう。



安全な場所へ
避難する

海岸から「より遠く」、「より高い」場所へ避難しましょう。



冬場の避難行動を
考える

積雪や道路の凍結などで避難行動に遅れが生じる可能性があります。素早い避難行動がとれるよう日頃から備えましょう。

日頃の心得

避難場所の確認や浸水想定区域の把握など、日頃から備えておきましょう。また、家族と避難先(集合場所)や連絡方法を確認しておくことが大切です。

家族会議を開こう

津波が発生したとき、どこに避難し、どのようにして連絡を取り合うのか、家族で事前に話し合しましょう。

一人暮らしのお年寄りなどには気配りを

自分の家族だけでなく、地域全体に目を向けましょう。特に、一人暮らしのお年寄りや子供、病気の方など避難行動要支援者の方たちには、普段から気配りが必要です。

避難場所や避難経路を確認しておく

この津波ハザードマップをもとに、自分の地域の避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

防災訓練に参加する

避難経路の安全性の確認のために、地域の防災訓練に参加しましょう。避難行動要支援者への支援方法についても、話し合うと良いでしょう。

非常持出品を準備しておく

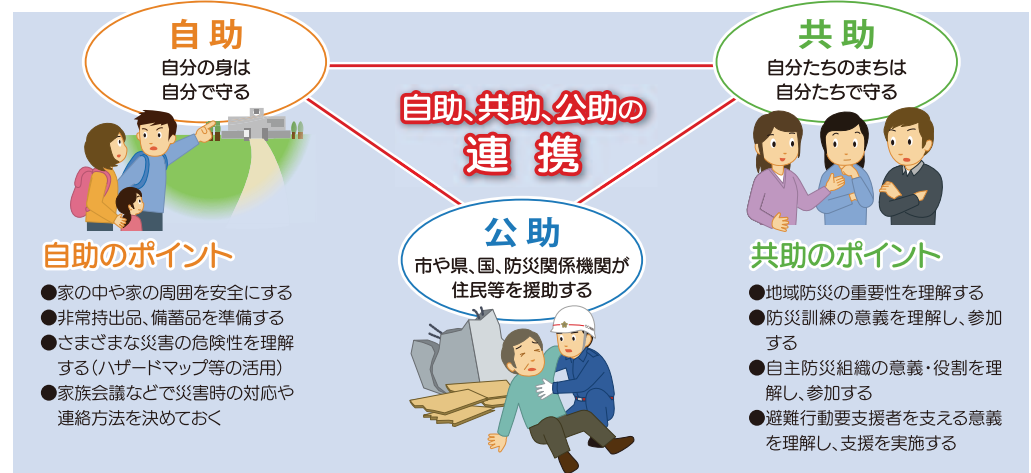
避難が必要になった場合に備えて、食料や貴重品などの非常持出品を準備しましょう。リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておくといいでしょう。



自助・共助・公助

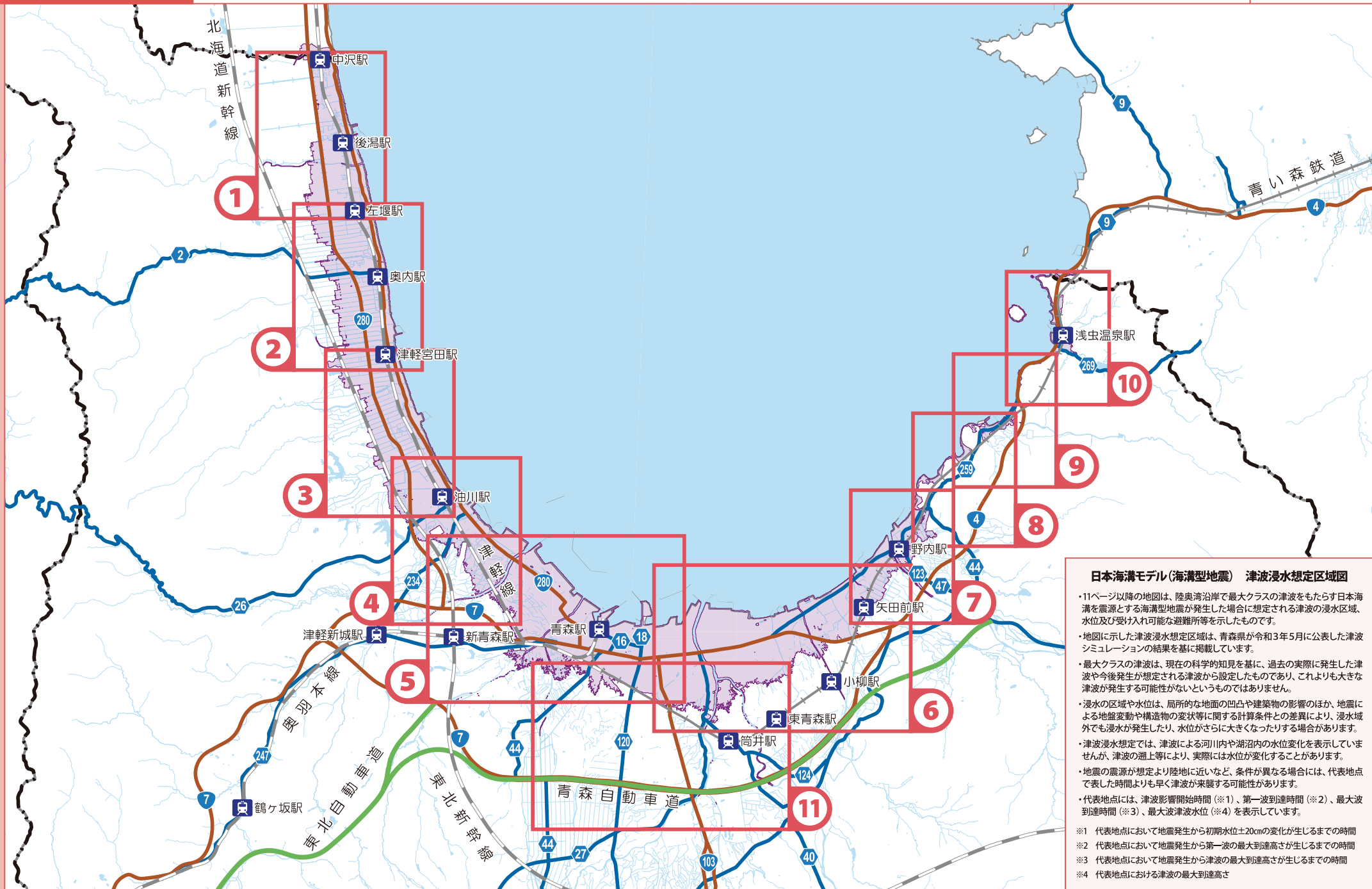
東日本大震災では、地震発生直後の「自力」「家族」「住民同士」による助け合いによって、多くの命が救われており、災害発生直後における地域の防災活動の重要性がより明らかになりました。また、その後の避難生活においても、地域のつながりが被災者の支えとなりました。

災害の発生を防ぐことはできませんが、これらの自助(住民、企業)、共助(自主防災組織等)、公助(行政、防災関係機関等)が最適に機能すれば、被害を減らすことは可能です。



- ① 国道
- ② 県道
- 高速道路
- 市町村界
- JR鉄道・駅
- 青い森鉄道・駅
- 津波浸水想定区域

S=1:80,000
0 2km



日本海溝モデル(海溝型地震) 津波浸水想定区域図

- ・11ページ以降の地図は、陸奥湾沿岸で最大クラスの津波をもたらす日本海溝を震源とする海溝型地震が発生した場合に想定される津波の浸水区域、水位及び受け入れ可能な避難所等を示したものです。
- ・地図に示した津波浸水想定区域は、青森県が令和3年5月に公表した津波シミュレーションの結果を基に掲載しています。
- ・最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ・浸水の区域や水位は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、水位がさらに大きくなったりする場合があります。
- ・津波浸水想定では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を表示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。
- ・地震の震源が想定より陸地に近いなど、条件が異なる場合には、代表地点で表した時間よりも早く津波が来襲する可能性があります。
- ・代表地点には、津波影響開始時間(※1)、第一波到達時間(※2)、最大波到達時間(※3)、最大波津波水位(※4)を表示しています。

- ※1 代表地点において地震発生から初期水位±20cmの変化が生じるまでの時間
- ※2 代表地点において地震発生から第一波の最大到達高さが生じるまでの時間
- ※3 代表地点において地震発生から津波の最大到達高さが生じるまでの時間
- ※4 代表地点における津波の最大到達高さ